

「第15回“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	かのやっ子クラブ
日時	平成27年5月17日(日) 11時から正午まで
場所	鹿屋中央公民館
参加者	かのやっ子クラブ(53名)
	市長、教育長、教育次長、生涯学習課長、広報広聴課長

1 市長あいさつ

市長：私は、市民の皆さんと「“本気”で語ろう会」を行っており、昨年、鹿屋市内の6高校の生徒さんとも1回実施した。色々な話を聞かせていただいて、若い人はこういうことを考えているのかと大変勉強になった。今日も中学生を含め色々な方々が来ているので、感じていることを聞かせていただければと思う。

私は、市長として、色々な物事を判断・決断しないといけない。色々な世代や考えの市民がいる中で、何かをしようとしたときにみんなにとって良いということはなかなかない。そうすると、色々な人の思いや考えを頭の中にたくさん入れて考えないといけない。みなさんも、これからボランティア活動に出ていき、たくさんの人に出会うが、そういった色々な人達で地域社会が出来ていることを知ることになると思う。その出会いの中で色々な人の生き方を学んで、そこから自分の将来を決めていってほしいと思う。

ボランティア活動については、平成7年の阪神淡路大震災の際、約5,000人が亡くなったが、全国から人が集まり被災者を助けた。この年がボランティア元年だと言われている。昔は、ボランティアが無くても、近所同士で支え合い地域社会が成立していた。しかし、今は隣近所のことも分からなくなり、ボランティア活動というものが出来た。本当はボランティアが無くても、隣近所同士で助け合いができれば良い社会なのかなとも思うが、今はボランティアが必要な社会となった。そういった意味で、皆さんには活動の中で、お互いに支え合う精神を学んでいただきたい。

それから、鹿屋市は25パーセントを超える高齢化率になっており、人口も減ってきている。日本全体でも40年から50年後には1億人をきる厳しい社会で皆さんは生きていく。その中で、自分が生きていくためにどんな仕事を見つけるのか。私は、人間にとって一生の誇りのある仕事を見つけることが一番幸せな人生だと考えている。私の時代は、妻が専業主婦として一生懸命家庭を支えてくれ、そのおかげで私は外で頑張ることができたが、今からは共働きでないと家庭を支えることができない社会になると思う。そういう意味では女性の皆さんも誇れる仕事を見つけていただきたい。

私は一生の仕事として県庁を選んだ。大学が県外で卒業後どうするかと考えたとき、ふるさとに帰りふるさとの為に働きたいと思い県庁に入った。その延長で今市長をさせていただいている。

また、この鹿屋で必要なことは、色々な人の考えをこの地域に持ち込むことだと思う。ずっと鹿屋に住んでいた人たちだけで考えるのではなく、東京・大阪・鹿児島市など、外から鹿屋を見て鹿屋を変えることが鹿屋のためになると考えて

いる。そういった意味で、副市長も国から来てもらい、職員採用も民間採用として5人の社会人を採用した。今の時代は人材を得ることが大事なので、皆さんも色々な経験をして自分の幅を広げ、卒業する頃には心が一回りも二回りも大きくなった姿を見せていただきたいと思う。

2 クラブ員からの質問（提案）

質問：鹿屋で好きな場所はあるか。

市長：その前に一言。東京の皆さんと話をするとき「鹿屋から来ました」と言うと、「やねだんがある所ですね」とか「体育大学」「自衛隊があり戦時中は特攻基地」などの答えが返ってくる。残念ながら「ばらのまち」としては今ひとつ認知されていない。

私が行ってみて良いなと感じた場所は、菅原小学校跡地である。昔「チェスト」という映画でも使われたが、ここは海岸につき出ている場所で鹿屋市の海岸線の宝だと思っている。また、吾平の中岳に登ったが、この近くには神野小学校跡地があり、今、廃校を使った施策を考えている。それから、高隈山にも登山したほうがよい。ぜひ、皆さんも色々なところに行ってください、いかにも観光地なところではなく地域のスポットを探してほしい。

市長：今、学校を見ると、全体的にどんどん生徒が減っている。鹿屋は周りの地域からも生徒さんが来ているが、通学に不便という話があった。私立はバスが整備されているので問題ないが、公立はそうもいかない。皆さんはどうやって通学しているのか。

クラブ員：バイクで通学している。

市長：この前、串良商業の生徒さんと話をしたが、その子の家庭は3年間両親が学校まで送迎しているとのことだった。1年生は、バイクの免許が取れる年齢との絡みもあるので、スクールバスがあれば良いのには思う。

学校生活の中で、他に困っているようなことは何かあるか。

クラブ員：校舎のことで困っている。（鹿屋女子高生）

市長：確かに、鹿屋女子高は老朽化しており迷惑をかけている。

校舎を建てると20年から30年は使うが、生徒さんがいなくなってしまうと困るので、そういった意味からも、生徒さんが来てくれるような魅力のある学校を作り生徒さんを確保する必要がある。期待してほしい。

質問：鹿屋市は今後どう変わると思うか。

市長：変えていくのは皆さんである。皆さんは若いので、大きく市外・県外に羽ばたいてほしい。今、グローバルに世界で働く時代である。皆さんも、外で知識や経験、様々な人とのネットワークを作って、この地域へのお土産として帰ってきてほしい。行政としても、皆さんの帰ってくる場所を創ってあげることが必要であると考えている。

今、地方創生を言う中で、東京・大阪等の一極集中に歯止めをかけて地方に人を呼び込めるよう、また、人が戻ってこれるよう仕組みを作る必要がある。その時に、働く場として昔ながらの企業誘致をしても、企業は国外に目を向けているので、大変難しい。もちろん努力はするが、夢だけ語っても現実的には非常に厳しいと思う。そこで、皆さんには起業家を目指してほしい。県外等で働いてきたスキルを使って、鹿屋でオーナーとなり経営していただく。それをお手伝いする仕組みを作りたいと考えている。

今流行っているが、店を持たずにインターネットで販売を行う人たちがいる。例えば、島根の山の中で古本を売っている人がいるが、山奥の廃校になった体育館に古本を集めて販売している。その方が保管場所の賃貸料など経費もかからない。だから、この地においても地理的な距離感が問題にならないような商売をしないとイケない。来てもらうのではなく、鹿屋で商売をするが、お客様は全国・世界という風な商売をしていかないとやっていけないと思う。

鹿屋を田舎と考えずに、数人でできる小さい企業を作っていただき、500人規模の大きな企業よりも、5人から10人規模のキラ星の如く小さく光る企業が50とか100ある方が、将来のまちづくりや雇用に大切だと思う。

質問：市長になった理由は何か。

市長：県庁で働く中で当時の96市町村を見渡すと、事業の推進や市町村のやる気など色々な差が見えた。そうやって見ていく中で、自分の経験をふるさとに生かせるのではないかと考えたことが一つ。

それから、大隅半島は無尽蔵の宝があり、やり方によってはまだまだ伸びしろがあるので、鹿屋に帰って頑張れば、これから大隅の時代となりこの地域が発展するのではないかと思いついたことである。

やり方によっては、将来明るいまちではないかと考えている。

質問：普段は何をしているか。

市長：土日も結構仕事があり夜も会合があるが、そういう中でも息抜きがとても大事だと考えている。

一つは、月何回か温泉に行くこと。それから40歳を過ぎてからマラソンを始め、

トライアスロンや菜の花マラソンなどにも連続で出場しており、県民健康プラザのジムに月2～3回行ってトレーニングを行いリフレッシュしている。

ただ、外に出かけるときは、色々なところで人目を気にする必要があり、緊張感とプレッシャーもあるが、それをよろこびに変えないといけないと考えている。上手に息抜きをしながら頑張ろうと思う。

市長：将来の就職について、皆さんが就職したとき、最初からは大きな仕事は任せてもらえないと思う。やはり下積みが必要で、私も就職したときに電話当番を2か月やったが、これによって色々な話を聞き職場の仕事が分かった。お客さんへのお茶の出し方や挨拶のしかたによっても、その会社の雰囲気分かる。その職場の職員の一人ひとりが何処を向いてどういう雰囲気なのかというのが会社の価値だと感じる。コピーを任されたとしても、いかにミスコピーをしないか。それだけでも会社の経費の削減に繋がる。

小さな仕事をやれない人は、大きな仕事はできない。小さな仕事を続けていくことで会社の価値を高めていくので、めげずに下積みを頑張っていたきたい。特に、女性の力は大きく、女性の挨拶一つでそこに入ってきた人に与える印象が違う。企業価値を高める大事なことなのでぜひ頑張っていたきたい。

3 まとめ

市長：鹿屋に住んでいても、この地域を知らないという人が多く、特に合併してからなおさらふるさとのことが分からないという話がある。そして知らないのに鹿屋には何もないと言う人もいる。しかし、実際には色々な歴史や文化、人が住んでいて素晴らしい地域がたくさんある。

皆さんも、ボランティア活動をしながら、土日に時間のある時は色々なところを訪ね歩いて見てほしい。将来県外に出て「鹿屋ってどんなところ」と人に聞かれたときに話せないのはもったいないので、鹿屋の良いところをたくさん覚えて鹿屋の宣伝マンとして鹿屋の魅力を話していただければありがたいと思う。

光陰矢のごとしで、月日の経つのはとても早い。皆さんは、変化のあるこの面白い時期を大事に過ごして、思う存分暴れてきてほしい。そして、将来鹿屋に帰ってきたときは、この地域のリーダーとして頑張してほしい。

今回、多くの皆さんに鹿屋っ子クラブへ参加していただいた。心から感謝するとともに、皆さんの活動に大変期待している。